

第19回

ナショナルバイオリソースプロジェクト「ゼブラフィッシュ」

運営委員会議事録

日時：2019年9月4日（水）午前10:00～12:00

場所：宇都宮大学（峰キャンパス大学会館2階トークルームI）

出席：岡本仁（理化学研究所CBS）、吉原良浩（理化学研究所CBS）、川上浩一（国立遺伝学研究所）、酒井則良（国立遺伝学研究所）、東島眞一（基礎生物学研究所）、石谷太（大阪大学）、伊藤素行（千葉大学）、鑪迫典久（愛媛大学）、田中利男（三重大学）、津田佐知子（埼玉大学）、成瀬清（基礎生物学研究所）、西谷直之（岩手医科大学）、日比正彦（名古屋大学）、平田普三（青山学院大学）、政井一郎（沖縄科学技術大学院大学）

オブザーバー参加：川原敦雄（山梨大学）、寺本敏紀・穂苅由樹（文部科学省）、笹土隆雄（日本医療研究開発機構）、柿沼久哉・石岡亜季子（理化学研究所CBS）

議題

1. 実施機関による実施状況報告
2. NBRP への寄託について
3. 海外の研究組織・ストックセンターとの連携
4. 実施機関の将来体制
5. 魚の Health monitoring
6. International Zebrafish meeting 2022 日本での host について
7. コミュニティー・ミーティングでのユーザーへのアナウンス

報告および審議

1. 実施機関による実施状況報告（岡本、川上、東島）

各実施機関の代表者より下記の点について報告があった。資料は事前にメールで委員に配布された。

- (1) 運営規模の概略
- (2) 2018 年度の会計報告
- (3) 2019 年度現時点までの会計報告
- (4) 2018 年度および 2019 年度現時点までの事業実績
- (5) データベースの現状と更新状況
- (6) その他

各運営状況のポイントおよび審議

◆理化学研究所 CBS（岡本）

(1)～(6)に関して、順調に事業が進んでいる旨、報告があった。

- ・2018 年度に追加予算により液体窒素凍結保存容器の購入や、顕微鏡・飼育室照明のメンテナンスを行った。
- ・今後、実費徴収の価格を改定する予定である。

◆国立遺伝学研究所（川上）

(1)～(6)に関して、順調に事業が進んでいる旨、報告があった。

- ・ゼブラフィッシュ近交系について新たな系統が樹立された。
- ・今後、実費徴収の価格を改定する予定である。

◆基礎生物学研究所（東島）

(1)～(6)に関して、順調に事業が進んでいる旨、報告があった。

- ・実費徴収の価格改定案を報告し、運営委員会で承認した。

2. NBRP への寄託について

寄託したい系統のバックグラウンドに他の研究者が開発した系統が入っている場合に、どう対応すべきか審議した。出来る限りバックグラウンドの遺伝子は落として寄託することが望ましい。バックグラウンドを含む系統を寄託する際には、その開発者や組み換え遺伝子の情報を NBRP に提供することが必須である。開発者には、NBRP に寄託すること、また NBRP から第三者に提供することについて許可を得て、提供の際の条件を確認する。必要に応じて NBRP と開発者の間で MTA を締結する。バックグラウンドの系統の情報を寄託同意書に反映させる方がよいとの意見があり、寄託同意書の見直しを検討することとした。

3. 海外の研究組織・ストックセンターとの連携

2 の議題と関連して、NBRP の系統をバックに含む系統が ZIRC に寄託され、ZIRC と話し合いがもたれたことが報告された。この系統については、ZIRC から第三者へ系統を提供することを許可するが、提供先の情報を ZIRC から NBRP に報告するよう依頼した。今後も同様のケースが生じる可能性があるが、系統がトレースできるように配慮することとした。

4. 実施機関の将来体制

第 5 期の実施体制を審議した。第 5 期の途中で定年退職による担当者の交替が起こりうるが、そのうえで、現体制を継続する方向で合意した。

理化学研究所 CBS は 2018 年度に組織改編、2019 年 8 月に外部評価があったため、次期 NBRP ゼブラフィッシュに関する検討は、これから本格的に行われる予定である。理化学研究所

での事業継続を望む場合、運営委員会およびコミュニティからの要望をステートメントの形で示すことが提案された。そこで、運営委員会の承認のもと、委員長からステートメントを理化学研究所に提出することとした。また、小型魚類研究会のコミュニティ・ミーティングで議題に挙げ、コミュニティの要望も反映することとした。

国立遺伝学研究所の状況としては、生物遺伝資源事業ゼブラフィッシュを継続することが予想され、将来にわたって、それに携わる人的配置が行われることが期待される。

次期 NBRP で系統開発も担う形はどうかと提案があったが、中核拠点プログラムの枠内で開発を行うことは難しい状況であるため、別途競争的資金による開発事業と連携する形が妥当ではないかとの見解だった。直近の課題として、ゲノム編集技術の広報活動としてワークショップの開催等は可能であるとの見解に至った。

次回の運営委員会で次期体制への状況を改めて確認し、第 5 期 NBRP の計画を進める予定とした。

5. 魚の Health monitoring

2017-2018 年度の Health monitoring 結果の報告があり、飼育装置の洗浄方法等について確認した。今後も Health monitoring を続け、その状況を報告することとした。

6. International Zebrafish meeting 2022 日本での host について

2022 年の International Zebrafish meeting を日本で開催することが報告された。これに向けて、魚種や分野の垣根をこえて、さらにコミュニティを強くしていくことが推奨された。

7. コミュニティ・ミーティングでのユーザーへのアナウンス

9月5日小型魚類研究会のコミュニティ・ミーティングにおいて、NBRP の事業説明および広報活動を川上が行い、次期 NBRP の体制について平田が議題に挙げコミュニティからの意見収集をすることとした。

→9月5日小型魚類研究会のコミュニティ・ミーティングで事業の広報活動を行うとともに、次期 NBRP の体制について審議した。これまでの本事業によるコミュニティへの貢献を高く評価し、次期 NBRP においても理化学研究所の事業継続を望む旨を、運営委員会とコミュニティからの要望書として運営委員長の平田から理化学研究所に提出することが承認された。